

手順書に係る事業^注の概要

注：平成25年度 診療の補助における特定行為に係る医師の指示に基づくプロトコール試行事業及び平成26年度 チーム医療推進事業 特定行為研修制度における手順書活用事業

1. 事業の目的

各事業実施施設において、手順書を作成し、その安全性や記載内容の妥当性を検証し、厚生労働省に検証結果や検証の過程を報告する内容とする。

2. 検証対象とする特定行為

チーム医療推進会議において特定行為（案）とされた41行為

3. 事業実施期間

平成25年度：平成25年8月～平成26年3月（約8ヶ月）

平成26年度：平成26年5月～同年8月（約3ヶ月）

4. 参加施設

61施設（25年度：57施設、26年度：39施設 うち35施設は25年度より継続）

うち 病院	51施設
診療所	1施設
介護老人保健施設	1施設
訪問看護ステーション	8施設

5. 事業実施施設

【事業実施施設：病院51施設】

一般財団法人操風会 岡山旭東病院
医療法人永広会 島田病院*
医療法人社団三喜会 鶴巻温泉病院
大分県立病院*
学校法人愛知医科大学 愛知医科大学病院*
学校法人 岩手医科大学附属病院
学校法人杏林学園 杏林大学医学部付属病院
学校法人国際医療福祉大学 国際医療福祉大学熱海病院
学校法人国際医療福祉大学 国際医療福祉大学三田病院
学校法人埼玉医科大学 埼玉医科大学総合医療センター

学校法人埼玉医科大学 埼玉医科大学病院
学校法人昭和大学 昭和大学東病院*
学校法人東海大学 東海大学医学部附属病院
学校法人東京医科大学 東京医科大学病院*
学校法人日本医科大学 日本医科大学附属病院
学校法人日本医科大学 日本医科大学武蔵小杉病院
株式会社麻生 飯塚病院*
公益財団法人仙台市医療センター 仙台オープン病院
公益財団法人田附興風会医学研究所 北野病院*
公益財団法人筑波メディカルセンター 筑波メディカルセンター病院*
公益財団法人星総合病院 星総合病院
公益社団法人大阪府保健医療財団 大阪府立中河内救命救急センター*
公益社団法人地域振興協会 東京ベイ・浦安市川医療センター*
公立甲賀病院組合 公立甲賀病院*
国立大学法人 鹿児島大学医学部・歯学部附属病院**
国立大学法人 佐賀大学医学部附属病院
国立大学法人 滋賀医科大学医学部附属病院
社会医療法人敬和会 大分岡病院
社会医療法人小寺会 佐伯中央病院*
社会医療法人生長会 ベルランド総合病院
社会医療法人若弘会 若草第一病院
社会福祉法人恩賜財団済生会 大阪府済生会吹田病院
社会福祉法人恩賜財団済生会支部 福井県済生会病院
社会福祉法人 北海道社会事業協会小樽病院*
社会福祉法人 三井記念病院*
市立秋田総合病院*
千葉県救急医療センター
独立行政法人 国立長寿医療研究センター
独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センター*
独立行政法人 国立病院機構 高崎総合医療センター**
独立行政法人 国立病院機構 東京医療センター
独立行政法人 国立病院機構 名古屋医療センター*
独立行政法人 国立病院機構 別府医療センター**
独立行政法人 地域医療機能推進機構 大阪病院
独立行政法人 労働者健康福祉機構 東北労災病院
豊橋市民病院*
日本赤十字社 高松赤十字病院*

日本赤十字社	長野赤十字病院 *
日本赤十字社	松江赤十字病院**
彦根市立病院*	
藤沢市民病院*	

【事業実施施設：診療所 1 施設】

医療法人社団三育会	新宿ヒロクリニック
-----------	-----------

【事業実施施設：介護老人保健施設 1 施設】

社会医療法人小寺会	介護老人保健施設 鶴見の太陽
-----------	----------------

【事業実施施設：訪問看護ステーション 8 施設】

医療法人アスミス	わくわく訪問看護ステーションおやま
医療法人誠医会	川崎大師訪問看護ステーション
江別市立病院	訪問看護ステーションいたわり
大分県厚生農業協同組合連合会	大分県厚生連訪問看護ステーション つるみ
公益財団法人	星総合病院 星訪問看護ステーション
社会福祉法人恩賜財団済生会	済生会松山訪問看護ステーション
スギメディカル株式会社	スギ訪問看護ステーション林寺
有限会社ふれすか	訪問看護ステーションみけ

*25 年度のみ
** 26 年度のみ

6-1. 手順書検証施設数

*平成 26 年 9 月 8 日報告状況を元に作成

手順書検証施設	25 年度		26 年度	
	病院	老健・診療所・訪問看護 ST	病院	老健・診療所・訪問看護 ST
経口・経鼻気管挿管チューブの位置調節	5	0	3	0
経口・経鼻気管挿管の実施	7	0	2	0
経口・経鼻気管挿管チューブの抜管	7	0	4	0
人工呼吸器モードの設定条件の変更	4	0	1	0
人工呼吸管理下の鎮静管理	6	0	2	0
人工呼吸器装着中の患者のウィーニングの実施	8	0	4	0
NPPV（非侵襲的陽圧換気療法）モードの設定条件の変更	4	0	2	0
気管カニューレの交換	5	2	5	2
直接動脈穿刺による採血	9	0	4	0

手順書検証施設	25 年度		26 年度	
	病院	老健・ 診療所・訪問 看護 ST	病院	老健・診療 所・訪問看 護 ST
橈骨動脈ラインの確保	5	0	2	0
「一時的ペースメーカー」の操作・管理	4	0	3	0
「一時的ペースメーカーリード」の抜去	3	0	2	0
PCPS（経皮的心肺補助装置）等補助循環の操作・ 管理	1	0	0	0
大動脈バルーンパンピング離脱のための補助頻 度の調整	1	0	0	0
急性血液浄化に係る透析・透析濾過装置の操 作・管理	2	0	0	0
腹腔ドレーン抜去（腹腔穿刺後の抜針含む）	4	0	2	0
胸腔ドレーン抜去	2	0	3	0
胸腔ドレーン低圧持続吸引中の吸引圧の設定・ 変更	2	0	2	0
心嚢ドレーン抜去	1	0	1	0
創部ドレーン抜去	4	0	2	0
硬膜外チューブからの鎮痛剤の投与、投与量の 調整	1	0	1	0
褥瘡の血流のない壊死組織のシャープデブリー ドマン	1 0	4	7	3
創傷の陰圧閉鎖療法の実施	7	0	5	0
褥瘡・慢性創傷における腐骨除去	2	0	2	0
持続点滴投与中薬剤（降圧剤）の病態に応じた 調整	2	0	0	0
持続点滴投与中薬剤（カテコラミン）の病態に 応じた調整	1	0	0	0
持続点滴投与中薬剤（利尿剤）の病態に応じた 調整	1	0	1	0
持続点滴投与中薬剤（K、Cl、Na）の病態に応じ た調整	2	0	2	0
持続点滴投与中薬剤（糖質輸液、電解質輸液） の病態に応じた調整	3	0	1	0
病態に応じたインスリン投与量の調整	5	0	2	0

手順書検証施設	25 年度		26 年度	
	病院	老健・ 診療所・訪問 看護 ST	病院	老健・診療 所・訪問看 護 ST
脱水の程度の判断と輸液による補正	6	5	3	5
持続点滴投与中薬剤（高カロリー輸液）の病態 に応じた調整	0	1	0	2
中心静脈カテーテルの抜去	7	0	3	0
PICC（末梢静脈挿入式静脈カテーテル）の挿入	3	0	1	0
臨時薬剤（抗けいれん剤）の投与	7	0	3	0
臨時薬剤（抗精神病薬）の投与	1	1	0	2
臨時薬剤（抗不安薬）の投与	1	2	0	2
臨時薬剤（感染徴候時の薬剤）の投与	1 3	2	7	0
抗癌剤等の皮膚漏出時のステロイド薬の調整・ 局所注射の実施	2	0	1	0
胃ろう・腸ろうチューブ、胃ろうボタンの交換 ＊事業実施は胃ろうのみ	1	3	1	3
膀胱ろうカテーテルの交換	1	2	0	2

手順書に係る事業報告の概要

	事業実施施設		手順書に記載すべき事項				平成25年度事業						平成26年度事業						備考
		病床数	患者の病状の範囲	診療の補助の内容	病状の範囲逸脱時の連絡体制(案)	行為実施後の医師への報告方法(案)	対象看護師数	活用場所	指示回数	患者数	検証	実施	対象看護師数	活用場所	指示回数	患者数	検証	実施	
経口・経鼻気管挿管チューブの位置調節	①	200～299	○	○	○	○	2	病棟・外来・その他	0	0	0	0	1	病棟・外来・その他	2	2	0	0	
	②	300～399	○	○	○	○	3	ICU、救急部、手術室	1	1	1	1	2	救急部、手術室	0	0	0	0	
	③	400～499	○*	○	記載なし	記載なし	1	病棟(ICU)・外来(救急外来)	10	10	10	10							*どの患者にどの手順書を活用するかは看護師が判断し、医師に報告・相談し、指示を受ける流れの手順書
	④	800～899	○	○	○	○	3	病棟・外来・その他・院外(ドクターヘリ出動時)	0	0	0	0	3	病棟・外来・その他・院外(ドクターヘリ出動時)	4	4	4	4	
	⑤	1000～	○*	○	○	○	1	救急救命センター	1	1	2	1							*医師が挿管チューブの位置調節が必要と判断する前提の手順書
経口・経鼻気管挿管の実施	①	～99	○	○	○	○	1	病棟、外来、その他(ドクターカー出動要請時現場活動)	5	4	10	4							
	②	200～299	○	○	○	○	1	救急外来	6	6	6	6							
	③	400～499	○	○	○	○	1	救急室	0	0	0	0	2	ICU	0	0	0	0	当該手順書の適応は、抜管後の再挿管としている。経口気管挿管(経鼻気管挿管除く)の手順書
	④	400～499	○*	○	記載なし	記載なし	1	病棟(ICU)・外来(救急外来)	5	5	5	5							*どの患者にどの手順書を活用するかは看護師が判断し、医師に報告・相談し、指示を受ける流れの手順書
	⑤	800～899	○	○	○	○	3	病棟・外来・その他・院外(ドクターヘリ出動時)	0	0	0	0	3	病棟・外来・その他・院外(ドクターヘリ出動時)	2	2	2	2	経口気管内挿管(経鼻気管内挿管除く)の手順書 経鼻気管内挿管は医療安全上等の理由から手順書による指示を実施しないとする院内ルールとしている
	⑥	900～999	○	○	○	○	1	病棟・外来	0	0	0	0							
	⑦	1000～	○*	○	○	○	1	救急救命センター	2	2	2	2							*医師が気管挿管による気道確保が必要と判断することを前提とした手順書。経口気管挿管は、「包括的指示では困難」の報告あり。
経口・経鼻気管挿管チューブの抜管	①	～99	○	○	記載なし	○	1	病棟、外来、その他(ドクターカー出動要請時現場活動)	3	3	6	3							
	②	300～399	○	○	○	○	3	ICU	1	1	1	1							
	③	300～399	○	○	○	○	3	ICU、救急部、手術室	0	0	0	0	2	救急部、手術室	10	10	10	10	
	④	400～499	○	○	○	○	1	ICU	2	2	2	0	2	ICU	1	1	1	0	
	⑤	500～599	○	○	○	○	1	ICU・救急外来	確認中	確認中	確認中	確認中							
	⑥	600～699	○	○	○	○							1	ICU	3	3	3	3	
	⑦	600～699	○	○	○	○	確認中												
	⑧	700～799	○	○	○	○							1	ICU	0	0	0	0	
	⑨	1000～	○*	○	○	○	1	救急救命センター	1	1	2	1							*医師が抜管の判断をすることをすることを前提とした手順書
人工呼吸器モードの設定条件の変更	①	600～699	記載なし	○	○	○	確認中												
	②	700～799	○	○	○	○	5	救命	14	14	14	14	8	救命・内科	9	5	23	23	
	③	700～799	○*	○	○	○	4	救命救急センター、CCU、病棟	4	4	4	4							*指導医に報告した上で行為を実施する流れの手順書
	④	1000～	○	○	○	○	1	救急救命センター	1	1	2	1							人工呼吸管理下の鎮静管理の行為と併せて1つの手順書を作成

	事業実施施設		手順書に記載すべき事項				平成25年度事業						平成26年度事業						備考
		病床数	患者の病状の範囲	診療の補助の内容	病状の範囲 逸脱時の連絡体制(案)	行為実施後の医師への報告方法(案)	対象看護師数	活用場所	指示回数	患者数	検証	実施	対象看護師数	活用場所	指示回数	患者数	検証	実施	
人工呼吸管理下の鎮静管理	①	300～399	○	○	○	○	3	ICU、救急部、手術室	1	1	1	1	2	救急部、手術室	0	0	0	0	
	②	300～399	記載なし	○	○	○	3	ICU	1	1	1	1							
	③	600～699	記載なし	○	○	○	確認中												
	④	700～799	○*	○	○	○	4	救命救急センター、CCU	11	11	11	11							*指導医に報告した上で行為を実施する流れの手順書
	⑤	700～799	○	○	○	○	5	救命	3	3	3	3	8	救命	1	1	2	2	
	⑥	1000～	○	○	○	○	1	救急救命センター	1	1	2	1							人工呼吸器モード設定条件の変更の行為と併せて1つの手順書を作成
人工呼吸器装着中の患者のウィーニングの実施	①	200～299	○	○	○	○	1	救急外来、ICU	1	1	1	1	1	ICU、外科病棟	3	2	3	3	
	②	200～299	○	○	○	○	2	病棟・外来・その他	3	3	3	0	1	病棟・外来・その他	2	2	2	0	
	③	300～399	記載なし	○	○	○	3	ICU	1	1	1	1							
	④	300～399	○	○	○	○	3	ICU、救急部、手術室	1	1	1	1	2	救急部、手術室	0	0	0	0	
	⑤	400～499	○	○	○	○							2	ICU	3	3	3	3	
	⑥	600～699	○	○	○	○	確認中												
	⑦	700～799	○*	○	○	○	4	救命救急センター、CCU、病棟	19	19	19	19							*指導医に報告した上で行為を実施する流れの手順書
	⑧	700～799	○	○	○	○	5	救命	3	3	3	3							
	⑨	1000～	○	○	○	○	1	救急救命センター	0	0	0	0							
NPPV(非侵襲的陽圧換気療法)モード設定条件の変更	①	100～199	○	○	○	○	1	集中治療室	2	2	2	2	1	集中治療室	0	0	0	0	
	②	200～299	○	○	○	○							1	ICU	6	2	6	6	
	③	300～399	○	○	○	○	1	ICU、病棟	2	2	6	0							
	④	500～599	○	○	○	○	1	ICU、救急病棟	確認中	確認中	確認中	確認中							
	⑤	1000～	○	○	○	○	1	救急救命センター	0	0	0	0							NPPVの開始、中止も含む手順書を作成
気管カニューレの交換	①	訪問看護ステーション	○	○	○	○	3	在宅	3	3	8	3	3	在宅	3	3	3	0	
	②	訪問看護ステーション	○	○	○	○	1	利用者宅	8	1	8	8	1	利用者宅	2	1	2	2	
	③	200～299	○	○	○	○	2	病棟・外来・その他	2	2	4	4	1	病棟・外来・その他	2	2	3	3	
	④	300～399	○	○	○	○	3	ICU、救急部、手術室	2	2	2	1	2	救急部、手術室	4	4	4	4	
	⑤	400～499	○	○	○	○							1	一般病棟	2	2	2	2	
	⑥	600～699	○	○	○	○							1	呼吸器センター	4	1	4	4	
	⑦	700～799	○	○	○	○	5	救命・内科	13	13	13	13							
	⑧	900～999	○	○	○	○	1	外来、病棟	7	7	15	15	1	外来、病棟	5	5	9	7	
	⑨	1000～	記載なし*	○	○	○	1	救急救命センター	3	3	6	3							*医師が気管カニューレの交換の必要性を判断し看護師に指示する流れを前提とした手順書

	事業実施施設		手順書に記載すべき事項				平成25年度事業						平成26年度事業						備考
		病床数	患者の病状の範囲	診療の補助の内容	病状の範囲逸脱時の連絡体制(案)	行為実施後の医師への報告方法(案)	対象看護師数	活用場所	指示回数	患者数	検証	実施	対象看護師数	活用場所	指示回数	患者数	検証	実施	
直接動脈穿刺による採血	①	～99	○	○	記載なし	○	1	病棟、外来、その他(ドクターカー出動要請時現場活動)	5	5	10	5							
	②	200～299	○	○	○	○	2	病棟・外来・その他	10	10	28	28	1	病棟・外来・その他	2	2	19	19	
	③	300～399	○	○	○	○	3	ICU、救急部、手術室	1	1	1	1	2	救急部、手術室	22	22	22	22	
	④	400～499	○*	○	記載なし	記載なし	1	病棟(ICU)・外来(救急外来)	50回以上	50名以上	50回以上	50回以上							*どの患者にどの手順書を活用するかは看護師が判断し、医師に報告・相談し、指示を受ける流れの手順書
	⑤	500～599	○	○	○	○							1	外科病棟、HCU	6	6	6	6	
	⑥	500～599	○	○	○	○	1	救急外来・ICU・救急病棟	確認中	確認中	確認中	確認中							
	⑦	900～999	○	○	○	○	1	外来(救急外来)	2	2	2	1							
	⑧	900～999	○	○	○	○	1	病棟・外来	10	10	10	10	1	病棟・外来	20	20	20	20	
	⑨	1000～	○	○		○	1	救命救急センター	8	8	8	8							
	⑩	1000～	○	○	○	○	1	ER	0	0	0	0							
橈骨動脈ラインの確保	①	～99	○	○	記載なし	○	1	病棟、外来、その他(ドクターカー出動要請時現場活動)	3	2	6	2							
	②	200～299	○	○	○	○	1	救急外来・ICU	1	1	1	1							
	③	400～499	○*	○	記載なし	記載なし	1	病棟(ICU)・外来(救急外来)	20	20	20	20							*どの患者にどの手順書を活用するかは看護師が判断し、医師に報告・相談し、指示を受ける流れの手順書
	④	500～599	○	○	○	○							1	HCU	1	1	1	1	
	⑤	700～799	○	○	○	○	5	救命	5	5	5	5	8	救命	5	5	5	5	
	⑥	1000～	○	○	○	○	1	救急救命センター	10	10	10	10							
「一時的ペースメーカー」の操作・管理	①	100～199	○	○	○	○	1	循環器病棟	1	1	1	0	1	循環器病棟	0	0	0	0	
	②	200～299	○	○	○	○	2	病棟・心カテ室	1	1	2	1	3	病棟・心カテ室	3	3	6	3	
	③	300～399	○	○	○	○	1	ICU	1	1	1	1	1	カテーテル室・病棟	2	1	2	2	
	④	700～799	○	○	○	○	2	循環器病センター(病棟)	58	58	58	0							一時的ペースメーカーリードの抜去と併せてひとつの手順書を作成
「一時的ペースメーカーリード」の抜去	①	200～299	○	○	○	○	2		0	0	0	0	3	病棟	2	2	2	2	
	②	300～399	記載なし	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	一時的ペースメーカーリードの抜去の判断については、当該施設の条件に鑑み検討した結果、病態を把握した医師がすることが望ましいとの結論に至ったとの報告あり。
	③	700～799	○	○	記載なし	○	2	循環器病センター(病棟)	1	1	1	1							一時的ペースメーカーの操作・管理と併せてひとつの手順書を作成
PCPS(経皮的心肺補助装置)等補助循環の操作・管理	①	400～499	○	○	○	○	2	ICU	確認中										
大動脈内バルーンポンピング離脱のための補助頻度の調整	①	400～499	○	○	○	○	1	ICU	確認中										
急性血液浄化に係る透析・透析濾過装置の操作・管理	①	900～999	○	○	○	○	1	病棟・外来	0	0	0	0							
	②	1000～	○	○	○	○	1	救急救命センター	2	2	2	2							

	事業実施施設		手順書に記載すべき事項				平成25年度事業						平成26年度事業						備考
		病床数	患者の病状の範囲	診療の補助の内容	病状の範囲 逸脱時の連絡体制(案)	行為実施後の医師への報告方法(案)	対象看護 師数	活用場所	指示回数	患者数	検証	実施	対象看護 師数	活用場所	指示回数	患者数	検証	実施	
腹腔ドレーン抜去(腹腔穿刺後の抜針含む)	①	300～399	○	○	○	○	3	病棟	3	3	3	3							
	②	500～599	○	○	○	○							1	外科病棟	13	12	13	13	
	③	600～699	記載なし	○	○	○	確認中												
	④	700～799	○*	○	○	○	4	病棟	5	5	5	5							*指導医に報告した上で行為を実施する流れの手順書
	⑤	900～999	○	○	○	○	1	病棟・外来	6	6	6	6	1	病棟・外来	12	12	12	12	
胸腔ドレーン抜去	①	300～399	○	○	○	○	1	病棟	1	1	1	1	1	病棟	3	3	3	3	
	②	400～499	○	○	○	○							1	病棟・救命センター	5	5	5	5	
	③	700～799	○	○	○	○	5	救命・外科	0	0	0	0	8	救命・外科	0	0	0	0	
胸腔ドレーン低圧持続吸引中の吸引圧の設定・変更	①	300～399	○	○	○	○	1	病棟	1	1	1	1	1	病棟	0	0	0	0	
	②	700～799	○	○	○	○	5	救命・外科	0	0	0	0	8	救命・外科	0	0	0	0	
心嚢ドレーン抜去	①	300～399	○	○	○	○	2	ICU・病棟	2	2	2	2	1	病棟	1	1	1	1	
創部ドレーン抜去	①	200～299	○	○	○	○	2	病棟・外来・その他	24	24	24	24	1	病棟・外来・その他	16	16	16	16	術後の創部ドレーンのケースが多く、回診時に医師より抜去の可否が決定されることが多いとの報告あり。
	②	200～299	○	○	○	○							1	外科病棟	24	24	24	24	
	③	700～799	○*	○	○	○	4	病棟	14	14	14	14							*指導医に報告した上で行為を実施する流れの手順書
	④	700～799	○	○	○	○	5	外科・救命	13	13	13	13							
	⑤	900～999	○	○	○	○	1	病棟・外来	5	5	5	5							
硬膜外チューブからの鎮痛剤の投与、投与量の調整	①	500～599	○	○	○	○							1	外科病棟	7	7	7	7	
	②	700～799	○*	○	○	○	4	-	0	0	0	0							*指導医に報告した上で行為を実施する流れの手順書
褥瘡の血流のない壊死組織のシャープデブリードマン	①	訪問看護ステーション	○	○	○	○	1	在宅	1	1	1	1	1	在宅	1	1	1	1	
	②	訪問看護ステーション	○	○	○	○	3	患者宅	0	0	0	0	8	患者宅	0	0	0	0	
	③	訪問看護ステーション	○	○	○	○	1	老健施設、在宅	0	0	0	0	1	老健施設、在宅	0	0	0	0	
	④	訪問看護ステーション	○	○	○	○	3	在宅	0	0	0	0							
	⑤	200～299	○	○	○	○	1	病棟・外来	15	15	15	15	1	外来	11	11	11	11	
	⑥	200～299	○	○	○	○	1	病棟、外来	0	0	0	0							
	⑦	400～499	○	○	○	○	1	病棟	6	6	6	5	1	病棟	0	0	0	0	
	⑧	500～599	○	○	○	○	1	病棟、救命救急センター	5	5	26	26							
	⑨	500～599	○	○	○	○	1	病棟、外来	286	157	286	286	1	病棟、外来	70	41	70	70	
	⑩	600～699	○	○	○	○	1	外来	3	3	3	3	1	外来	5	5	6	5	
	⑪	900～999	○	○	○	○	1	病棟・外来	17	10	17	17	1	病棟・外来	9	5	9	9	
	⑫	1000～	○	○	○	○	1	病棟・外来	66	66	66	66	1	病棟・外来	17	17	17	17	
	⑬	1000～	○	○	○	○	1	病棟	4	1	4	4	1	病棟	0	0	0	0	
	⑭	1000～	○	○	○	○	1	救急救命センター	0	0	0	0							

	事業実施施設		手順書に記載すべき事項				平成25年度事業						平成26年度事業						備考
		病床数	患者の病状の範囲	診療の補助の内容	病状の範囲逸脱時の連絡体制(案)	行為実施後の医師への報告方法(案)	対象看護師数	活用場所	指示回数	患者数	検証	実施	対象看護師数	活用場所	指示回数	患者数	検証	実施	
創傷の陰圧閉鎖療法の実施	①	300～399	○	○	○	○	1	病棟	1	1	4	3							
	②	400～499	○	○	○	○	1	病棟	10	10	10	10							
	③	500～599	○	○	○	○	1	病棟、外来	190	58	190	190	1	病棟、外来	24	6	24	24	
	④	500～599	○	○	○	○	1	病棟、手術室	41	41	123	123							
	⑤	600～699	○	○	○	○							1	病棟	1	1	6	6	
	⑥	900～999	○	○	○	○	1	病棟・外来	23	15	30	30	1	病棟・外来	14	8	17	17	
	⑦	1000～	○	○	○	○	1	病棟	16	5	16	15	1	病棟	1	1	10	10	
	⑧	1000～	○	○	○	○	1	病棟・外来	186	186	186	186	1	病棟・外来	51	51	51	51	
褥瘡・慢性創傷における腐骨除去	①	500～599	○	○	○	○							1	病棟、外来	2	1	2	2	
	②	500～599	○	○	○	○	1	-	0	0	0	0							
	③	1000～	○	○	○	○	1	病棟・外来	5	5	5	5	1	病棟・外来	6	6	6	6	
持続点滴投与中薬剤(降圧剤)の病態に応じた調整	①	400～499	○	○	○	○	確認中	CICU	0	0	0	0							
	②	1000～	○	○	○	○	1	救急救命センター	0	0	0	0							
持続点滴投与中薬剤(カテコラミン)の病態に応じた調整	①	700～799	○	○	○	○	4	CCU	3	3	3	3							
持続点滴投与中薬剤(利尿剤)の病態に応じた調整	①	200～299	○	○	○	○	2	病棟・救急外来・ICU	6	6	20	20	3	病棟・救急外来・ICU	5	5	22	22	
持続点滴投与中薬剤(K、Cl、Na)の病態に応じた調整	①	300～399	○	○	○	○							1	病棟	6	6	13	5	
	②	600～699	○	○	○	○	1	内科外来	1	1	1	0							
	③	700～799	○	○	○	○							8	救命・外科	13	4	22	22	
	④	1000～	○	○	○	○	1	救急救命センター	1	1	2	1							脱水の程度の判断と輸液による補正と併せて一つの手順書として作成
持続点滴投与中薬剤(糖質輸液、電解質輸液)の病態に応じた調整	①	100～199	○	○	○	○	1	集中治療室	1	1	1	1	1	集中治療室	1	1	1	1	
	②	400～499	○	○	○	○	2	CICU	2	2	8	2							
	③	500～599	○	○	○	○	確認中	確認中	確認中	確認中	確認中	確認中							
病態に応じたインスリン投与量の調整	①	100～199	記載なし	○	○	○	1	病棟、手術室	80	80	400	400							指導医と協議しながら連携してインスリン調整にあたる前提で作成された手順書
	②	200～299	○	○	○	○	1	循環器外来	4	2	4	4							
	③	300～399	○	○	○	○	1	病棟・外来	1	1	4	3	1	病棟・外来	3	3	8	6	
	④	500～599	○	○	○	○							1	病棟	2	1	確認中		
	⑤	600～699	○	○	○	○	1	内科外来	13回以上	確認中	13回以上	13回以上							
	⑥	1000～	○	○	○	○	1	救急救命センター	0	0	0	0							静脈内投与による血糖コントロールを行っている患者を対象とする手順書

	事業実施施設		手順書に記載すべき事項				平成25年度事業						平成26年度事業						備考
		病床数	患者の病状の範囲	診療の補助の内容	病状の範囲逸脱時の連絡体制(案)	行為実施後の医師への報告方法(案)	対象看護師数	活用場所	指示回数	患者数	検証	実施	対象看護師数	活用場所	指示回数	患者数	検証	実施	
脱水の程度の判断と輸液による補正	①	訪問看護ステーション	○	○	○	○	8	患者宅	6	6	19	14	8	患者宅	7	5	65	51	
	②	訪問看護ステーション	○	○	○	○							1	在宅	0	0	0	0	
	③	訪問看護ステーション	○	○	○	○	3	在宅	1	1	32	0	2	在宅	6	3	36	1	
	④	訪問看護ステーション	○	○	○	○	1	在宅	20	4	122	122	1	在宅	12	6	107	107	
	⑤	訪問看護ステーション	○	○	○	○	3	在宅	3	3	34	2							
	⑥	訪問看護ステーション	○	○	○	○	1	在宅	35	1	35	15	1	在宅	40	3	40	10	
	⑦	100～199	○	○	○	○	1	その他(外来診療室)	5	5	5	4							
	⑧	100～199	○	○	○	○	1	救急外来	2	2	2	2	1	救急外来	1	1	1	1	
	⑨	200～299	○	○	○	○	2	病棟・外来・その他	1	1	1	1	1	病棟・外来・その他	6	6	0	0	
	⑩	300～399	○	○	○	○							1	病棟、外来	10	10	22	6	
	⑪	500～599	○	○	○	○	確認中	確認中	確認中	確認中	確認中	確認中							
	⑫	900～999	○	○	○	○	1	病棟・外来	0	0	0	0							
	⑬	1000～	○	○	○	○	1	救急救命センター	1	1	2	1							持続点滴投与中薬剤(K, Cl, Na)の病態に応じた調整と併せてひとつの手順書を作成
持続点滴投与中薬剤(高カロリー輸液)の病態に応じた調整	①	訪問看護ステーション	○	○	○	○							2	在宅	2	1	16	2	
	②	訪問看護ステーション	○	○	○	○	1	在宅	17	1	17	1	1	在宅	11	2	11	1	
中心静脈カテーテルの抜去	①	200～299	○	○	○	○	2	病棟・外来・その他	6	6	6	6	1	病棟・外来・その他	2	2	2	2	
	②	300～399	○	○	○	○	3	病棟	3	3	3	3							
	③	400～499	○*	○	○	○	1	病院全体	0	0	0	0							*主治医が病態を確認し、中心静脈カテーテルの抜去を判断している。 看護師は、安全上の再確認を行い実施する前提の手順書。
	④	500～599	○	○	○	○	1	病棟	2	2	2	2	2	病棟	1	1	1	1	
	⑤	600～699	記載なし	○	○	○	確認中												
	⑥	700～799	○	○	○	○	1	病棟	9	9	9	9							
	⑦	700～799	○	○	○	○							1	ICU	1	1	1	1	
	⑧	900～999	○	○	○	○	1	病棟・外来	5	5	5	5							
PICC(末梢静脈挿入式静脈カテーテル)挿入	①	200～299	○	○	○	○	1	病棟、外来	0	0	0	0							
	②	500～599	○	○	○	○	1	病棟	5	5	5	3	2	病棟	4	4	4	1	
	③	300～399	○	○	○	○	3	ICU、病棟	4	4	4	4							

	事業実施施設		手順書に記載すべき事項				平成25年度事業						平成26年度事業						備考
		病床数	患者の病状の範囲	診療の補助の内容	病状の範囲 逸脱時の連絡体制(案)	行為実施後の 医師への 報告方法 (案)	対象看護 師数	活用場所	指示回数	患者数	検証	実施	対象看護 師数	活用場所	指示回数	患者数	検証	実施	
臨時薬剤(抗けいれん剤)の投与	①	100～199	○	○	○	○	1	救急外来	1	1	1	0	1	救急外来	0	0	0	0	*どの患者にどの手順書を活用するかは看護師が判断し、医師に報告・相談し、指示を受ける流れの手順書
	②	200～299	○	○	○	○	2	病棟・外来・その他	4	4	4	4	1	病棟・外来・その他	6	6	0	0	
	③	400～499	○*	○	記載なし	記載なし	1	病棟(ICU)・外来(救急外来)	3	3	3	3							
	④	900～999	○	○	○	○	1	外来	0	0	0	0							
	⑤	800～899	○	○	○	○	3	病棟・外来・その他・院外 (ドクターヘリ出勤時)	0	0	0	0	3	病棟・外来・その他・院外 (ドクターヘリ出勤時)	1	1	1	1	
	⑥	900～999	○	○	○	○	1	外来(救急外来)	3	3	2	0							
	⑦	1000～	○	○	○	○	1	ER	1	1	1	0							
臨時薬剤(抗精神病薬)の投与	①	訪問看護ステーション	○	○	○	○							3	在宅	2	2	66	2	
	②	訪問看護ステーション	○	○	○	○	1	在宅	11	1	11	11	1	在宅	11	1	11	8	
	③	900～999	○	○	○	○	1	外来	0	0	0	0							
臨時薬剤(抗不安薬)の投与	①	訪問看護ステーション	○	○	○	○	1	在宅	20	1	20	2	1	在宅	11	2	11	8	
	②	訪問看護ステーション	○	○	○	○	3	在宅	2	2	23	0	3	在宅	2	2	76	5	
	③	900～999	○	○	○	○	1	外来	0	0	0	0							
臨時薬剤(感染徴候時の薬物)の投与	①	訪問看護ステーション	○	○	○	○	3	在宅	2	1	32	1							感染徴候時(SSI、肺炎)の手順書
	②	訪問看護ステーション	○	○	○	○	3	在宅	3	3	53	0							
	③	～99	○	○	○	記載なし	1	病棟、外来	3	3	3	3							
	④	200～299	○	○	○	○	1	病棟	7	7	7	2	1	病棟	12	11	12	4	
	⑤	300～399	○	○	○	○							1	病棟	9	9	16	5	
	⑥	400～499	○	○	○	○	1	内科病棟・外科病棟	2	2	2	0							
	⑦	400～499	○	○	○	○	1	全病棟、全外来、ICU	0	0	0	0							
	⑧	400～499	○	○	○	○	1	病院全体	0	0	0	0	1	病院全体	0	0	0	0	
	⑨	500～599	○	○	○	○	1	病棟・外来全科、集中治療室、手術室、NICU、血液浄化センター、脳卒中ケアユニット	0	0	0	0	1	病棟・外来全科、集中治療室、手術室、NICU、血液浄化センター、脳卒中ケアユニット	0	0	0	0	
	⑩	500～599	○	○	○	○	1	病棟	4	4	9	3	1	病棟	3	1	9	6	
	⑪	500～599	○	○	○	○	確認中												
	⑫	600～699	○	○	○	○	1	院内全体	5	5	5	5	1	病棟	2	2	2	2	
	⑬	600～699	○	○	○	○	確認中												
	⑭	800～899	○	○	○	記載なし	1	整形外科病棟・内科病棟	2	2	2	2							血液培養陽性の皮膚軟部組織感染/院内尿路感染症に係る感染徴候時の手順書を作成
	⑮	800～899	○	○	○	○	1	病棟	2	2	2	0	1	病棟	2	2	3	0	
	⑯	900～999	○	○	○	○	1	病棟・外来	0	0	0	0							

	事業実施施設		手順書に記載すべき事項				平成25年度事業						平成26年度事業						備考
		病床数	患者の病状 の範囲	診療の補助 の内容	病状の範囲 逸脱時の連 絡体制(案)	行為実施後 の医師への 報告方法 (案)	対象看護 師数	活用場所	指示回数	患者数	検証	実施	対象看護 師数	活用場所	指示回数	患者数	検証	実施	
抗癌剤等の皮膚漏出時のステロイド薬の調整・局所注射の実施	①	400～499	○	○	○	○	1	化学療法室	2	2	2	2	1	化学療法室	0	0	0	0	
	②	400～499	○	○	○	○	1	化学療法センター(外来)	確認中										
胃ろう・腸ろうチューブ、胃ろうボタンの交換	①	訪問看護ステーション	○	○	○	○	1	在宅	2	2	19	19	1	在宅	2	2	6	6	胃瘻チューブの交換の手順書
	②	診療所	○	○	○	○	4	在宅	18	11	18	18	5	在宅	5	5	5	5	胃瘻ボタンの交換の手順書
	③	介護老人福祉施設	○	○	○	○	1	老健施設、診療所	15	15	45	45	1	老健施設、診療所	14	14	23	23	胃ろうチューブの交換の手順書
	④	900～999	○	○	○	○	1	外来、病棟	8	8	12	12	1	外来	4	4	4	3	胃瘻ボタン・チューブの交換の手順書
膀胱ろうカテーテルの交換	①	訪問看護ステーション	○	○	○	○	4	患者宅	1	1	3	0	5	患者宅	1	1	2	1	
	②	訪問看護ステーション	○	○	○	○	1	外来	12	1	12	12	1	外来	4	1	4	4	
	③	300～399	○	○	○	○	1	外来、病棟	1	1	8	8							

手順書による指示のイメージ

(参考)

手順書による指示は以下のような構成で行われることを想定しています。

手順書による指示として必須の事項と考えられるもの

患者氏名(a)

指示する医師名(b)

対象行為の指示(c)
(どの手順書によるのかを明記)

患者の病状の範囲(g)

診療の補助の内容(h)

対象行為を実施する看護師名(d)

処方内容(e)
(薬剤に関連する対象行為においては必須)

指示の都度、個々に設定する確認事項(f)
(必要な場合)

病状の範囲逸脱時の連絡体制(i)

行為実施後の医師への報告方法(j)

※現場の実情に応じて上記項目を振り分け

指示簿

患者氏名(a)

指示する医師名(b)

対象行為の指示(c)
(どの手順書によるのかも明記)

対象行為を実施する看護師名(d)

処方内容(e)
(薬剤に関連する対象行為においては必須)

指示の都度、個々に設定する確認事項(f)
(必要な場合)

手順書

患者の病状の範囲(g)

診療の補助の内容(h)

病状の範囲逸脱時の連絡体制(i)

行為実施後の医師への報告方法(j)

手順書に記載する項目として厚生労働省令で定められるもの(案)

※現時点の案では、手順書に記載する項目として厚生労働省令で定められるものは「患者の病状の範囲(g)」「診療の補助の内容(h)」「病状の範囲逸脱時の連絡体制(i)」「行為実施後の医師への報告方法(j)」としています。

※手順書は、委託施設(訪問看護事業所の場合連携する医療機関を含む)において、医師や看護師、他の医療関係職種と連携しながら予め策定して下さい。

※患者の状態等により指示の都度、個々に設定されうる病状の範囲の確認事項については、手順書の「患者の病状の範囲」ではなく、指示簿等に表示されるものとします。

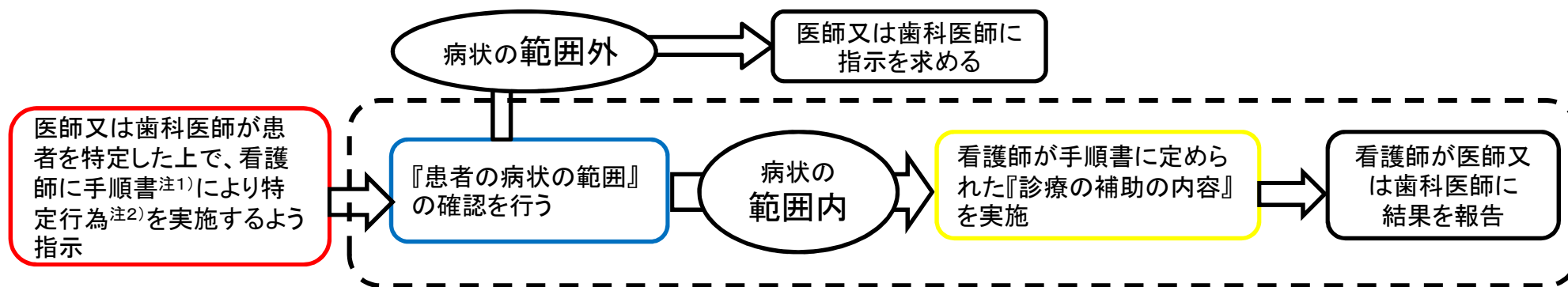
【具体例: 直接動脈穿刺による採血】

「呼吸状態の悪化が認められる」 → 手順書に記載する「患者の病状の範囲(g)」として記載

「SpO₂90%以下が持続する」 → 患者の状態により、個々に設定されうる病状の範囲の確認事項(f)として指示の都度指示書に記載(必要な場合)

制度上の行為実施の流れと手順書に係る事業における行為実施の流れ

制度における行為実施の流れ



手順書に係る事業において前提としている行為実施までの流れは下図の緑の矢印の流れ

